



地域包括支援センターフェア

笑って学んだ、消費者被害

3月10日 津山市総合福祉会館

寸劇や落語を通して、高齢者がだまされやすい消費者被害の対処法を学びました。

寸劇は会場を催眠商法の会場に見立てて行われ、来場者は催眠商法に引かかったふりをして手を挙げたり、「そんな高いもん、買わないよ」という声を上げたりして、寸劇に参加しました。また、最近津山でも発生したカニの「送りつけ商法」の被害に遭う様子を、センターのキャラクター・うめ子が熱演。会場を笑いに包みながら、消費者被害の実態と解決法を伝えました。



あばみそづくり交流会

おいしさのミソは、たっぷりの阿波産米麴

2月26日 阿波特産館

阿波産の氷温熟成米コシヒカリで作った米麴に、岡山県産の大豆を合わせ仕込むことで「あば手づくりみそ」においしい甘さが生み出されます。

「あばみそづくり交流会」は、阿波味噌の仕込みを通して都市と農村の住民が交流することを目的に毎年2月に開催されています。

奈良県から夫婦で毎年参加している竹住嘉清さんは「一度食べるとほかの味噌は食べられません。毎回買って帰り、親戚中に配ってあげるんですよ」と話してくれました。

Live paper story

歌って、手拍子して、大喜び

2月27日 市立図書館

絵本作家のよしとさんが紙芝居をめくりながら物語りを歌い、シンガーソングライターのひうたさんがギターを弾いてリズムを奏でる紙芝居。子どもも大人も会場が一体となって、歌い、手拍子を合わせ、盛り上がりしました。

紙芝居の途中には「何かな、何かな」とチラチラクイズ。子どもたちは口々に「ゾウさん!」「ちがうよ、ヤカんだよ〜」などと元気に叫んでいました。

一人ひとりの心がほっこりしたライブに子どもたちはどんなことを感じたかな?



弦の響宴 2011春

弦の音色に魅かれて

3月19日 ペルフォーレ津山

9月17日(土)~25日(日)に開催される津山国際総合音楽祭。そのプレイベントとして、津山弦楽四重奏団によるバイオリン、ビオラ、チェロが奏でられました。

津山弦楽四重奏団は津山にゆかりのメンバーなどで構成され、この日が初めてのステージ。のびやかなバイオリンの響きやすすり泣くような細かい旋律、チェロの深く厚みのある音色に、聴衆は聴き入っていました。

四重奏のほか、バイオリンとビオラ・バイオリンとチェロの二重奏も演奏され、さまざまな弦の共演に聴衆は音楽の楽しさを感じていました。

第19回「梅の里」梅まつり

咲き誇る紅梅、白梅に心癒やされ

2月26日~3月27日 神代梅の里公園



南高や鶯宿、寒紅しだれ梅など、中国地方最大級の16品種・約2,000本の梅が咲き誇る「神代梅の里公園」。

今年は開花が遅く、3月12、13日にはまだ咲き始めでしたが、もち投げや梅の種飛ばし大会などが開催され、多くの方が訪れました。園内は琴と尺八の音色に包まれ、安らかな時間が流れていました。梅の種飛ばし大会で6.66m飛ばし、見事2位になった篠本克彦さん(大阪府)は「湯郷温泉に宿泊し、このイベントを知りました。津山は初めてですが、とても楽しかったです。梅干し大好き!」と話してくれました。

3月19日には満開を迎えて多くの人でにぎわい、さわやかな春風の中、園内でお弁当を広げる家族連れの姿も見られました。また「春の夜の 闇はあやなし 梅の花 色こそ見えね 香やは隠るる」など、梅の花を詠んだ和歌などを口ずさみながら園内を散策する観光客も見受けられました。

加茂の朝市 200回記念

みんなに愛されて、200回

3月20日 加茂町文化センター前駐車場

平成6年4月から開催されている加茂の朝市。きねつきもちやあまごの唐揚げなど、加茂地域の特産品を販売。地元の人たちに愛され、200回目の開催を迎えることができました。

今回は200回を記念し、マグロの解体ショーやもち投げも行われ、多くの人を喜ばせました。

4月17日(日)の加茂の朝市は「津山加茂郷フルマラソン全国大会」の会場、加茂町スポーツセンターで開催されます。



勝北陶芸の里15周年記念展示会

陶芸って楽しいね

3月5、6日 地域交流センター

設立15周年を記念して、勝北陶芸の里で活動する愛好者団体・雄杉会が作品展を開催しました。73人の出展者が花瓶・皿などの自信作や豚の形をした蚊取り線香入れ、カエルの置き物などを展示。約550人の来場者がバラエティに富んだ作品を楽しみました。

また、親子連れなどが手ろくろを回し、カップやお皿作りを体験。6歳の誕生日に初めて陶芸体験をした中川慈大くん(東一宮)は「家族みんなで作って楽しかった。作ったお皿で早くごはんを食べてみたい」とうれしそうに教えてくれました。